会員レポート 島根トヨペット株式会社

「あつまれ!! はたらくくるま」のイベント開催で 地域に根差した独自のブランド戦略を展開

▲毎年スケールアップし、2025年には約1万人が来場した

子どもたちが「働く大人のかっこいい姿」に触れる機会をつくりたい

島根トヨペット株式会社（勝部道成代表取締役社長）は、地域貢献活動の一環として、2022年から毎年11月3日（文化の日）に、「あつまれ!! はたらくくるま」を開催している。

同イベントのコンセプトは、「地元の子どもたちに、働くことの大切さや働いている大人のかっこよさを見て・触れて・感じて、将来の夢や進路選択に役立ててほしい。また、若い世代にも地元で働く社会人や企業などに直接関わることで、地元企業に就職を考えるきっかけとしてほしい。それぞれの業界が特有の啓発活動をすることで、来場者に日々の生活に役立ててほしい」というもの。

島根県では、地方都市に共通する人口減少に加え、高校卒業時の進学や就職に伴う若年層の県外流出が著しく、「第二の人口減少」として大きな課題となっている。こうした状況の中、子どもたちが幼い頃から「働くこと」や「働く大人のかっこいい姿」に触れる

2025年「あつまれ‼はたらくくるま」の様子

▲バルーンコースを電動カートで走る安心・安全なアクティビティで運転の楽しさを体験。

▲キッズエンジニア体験は毎年多くの子どもたちに人気

▶◀農業用トラクターや高所作業車への搭乗体験に子どもたちは興奮気味

◀▼このイベントに合わせて納車された新車を用意する企業も。出展企業の従業員の家族も毎年このイベントを楽しみにしている

ことで、地域の産業や職業への興味を深め、「将来こんな仕事がしたい」、「こんな人たちと一緒に働きたい、地元で活躍したい」と思えるきっかけを作りたいとの想いから、同社の乙部 宏隆実行委員長（新車担当責任者兼店舗支援課課長）が中心となり企画・運営している。

乙部課長は第1回目の開催当時について、「コロナ禍での自粛生活で皆ストレスが溜まっている中、私を始め40歳という同年代の子育て世代の仲間同士が集まり、一緒に地元を盛り上げたいと意気投合したことがきっかけです」と振り返る。

その後、こうした想いに共感し業種の垣根を越えて協力者（企業・法人）の輪が広がった。同時に、それぞれの得意分野、専門分野を生かした取組が広がることで、イベントはさらに魅力的なものへと発展していった。

乙部課長は「このイベントを企画、開催するに当っては、私が勤める島根トヨペットに理解、協力していただいたことが大きい」と話す。

勝部社長は、「長年地元にお世話にな

▶◀滅多に乗車することのできない警察や消防の特種車両にも乗車が可能に

▲島根県牛乳普及協会による島根県産牛乳の飲み比べ体験や乳しぼり体験も

▼日本最大級のストリートボールリーグ「SOMECITY」が搬入したバスケットゴール搭載のトラックを使って、子どもたちはバスケットボールを楽しんだ

◀2025年「あつまれ!! はたらくくるま」の開催当日は、80企業／団体から、100台の車両が出展。67企業／団体が協賛し、約300名のスタッフが関わった

っている当社としては、日頃から様々な形で地域に貢献してまいりたいと考えています。一企業だけでは実現が難しいことでも、地域の子どもたちのために力を合わせる大人たちが集まれば、大きなイベントとして形にすることができます。子どもの頃に両親と出掛けたイベントは、大人になっても心に残る特別な思い出になるはず。これは息の長い取組であり、今は種まきの段階なのです」と話す。

2022年にスタートした「あつまれ!!はたらくくるま」は、回を重ねるごとに多くの人々から好評を得て、地域に根差したイベントとして定着。同時に同社の認知度も向上するなどブランド戦略としても効果を挙げている。

このイベント開催により同社は、日刊自動車新聞社による地元地域・エリアの活性化に向け地域住民や自治体・企業とともに共創し継続的な取組を行う「自動車ディーラー」表彰制度「2025年自動車ディーラー地域共創アワード」で優秀賞に選出された。また、第5回「クルマ・文化・社会・パートナーシップ大賞」（CSP大賞）に

▲黒を基調とした外観の松江店

▲協定書を手にする勝部社長（左）と丸山島根県知事（右）

▲川西店長

▶一つ一つの木箱を組み合わせ、最終的に社員とその家族で完成させた大型遊具。1階には木の玉プールや秘密の通路があり、階段で上がることができる円柱2階の広いスペースでは、親子で遊びながら過ごすことができる

▼建物2階の多目的ホールは将来的には地域住民への貸し出しも考えている

▼温もりを感じる木製の受付カウンターとカウンターバック

県産木材使用で地域との連携を強化

同社は3月5日、旗艦店である松江店（川西 融 店長）をリニューアルオープンした。同店の特徴は、ショールームに高さ3メートルもの大型の木製遊具を設置したこと。島根県産の木材で作られたこの遊具の下には木の玉プールを備えるなど、木の温もりや香りを感じることができる「木育キッズルーム」となっており、他社との差別化が図られている。来店されたお客様からも、「良い意味で車屋っぽくない」、「木の香りがよく、落ち着く、やすらぐ」、「子どもがまた行きたいと言っている」などの声が寄せられるなど、好評だという。

同社では、各店舗でも県産木材による内装木質化や家具などを配置。木材の良さやカーボンニュートラルを積極的にPRしており、2月には島根県と県産木材の利用促進協定を締結した。おいて、グッドパートナーシップ事業に選ばれた。同社は、今後も同イベントを継続的に発展させ、子どもたちの未来と地域の活力につながる取組として育てていきたいとしている。